



巻頭言

「読むこと」に困らないために

両沼小学校長会長 博多 弘泰
(会津美里町立高田小学校)

リーディングスキル(基礎的・汎用的読解力)との出会いは、令和2年に校長として赴任した学校であった。当時、隣接する中学校の校長先生が熱心にリーディングスキルに取り組んでおり、中学校の授業研究会にも参加させていただいていた。また、その校長先生から「小学校も一緒にやってみませんか」と声をかけられ、翌年からリーディングスキルの向上を現職教育のテーマとして取り組んだ。

令和4年に会津美里町立高田小学校に赴任すると、会津美里町の学校重点事項の「確かな学力の定着」に、基礎的・汎用的読解力(リーディングスキル)の向上が掲げらおり、先生方と話し合い、現職教育として取り組んでいくことになった。取り組むにあたって、先生方には、「今、子どもたちに必要な学力は、全国学力学習状況調査やふくしま学調の問題を解けるようになることです。」と話をした。毎年、いずれの問題を見ても、日常生活の場面と関連づけられた設定の中で「読む」ことができなければ、また、「図やグラフなどからも情報を読み取る力」がなければ、問題の内容を理解できない内容になっている。そのことを踏まえ、日々の授業でも、教科書等を「正確に読むこと」を大切にしながら、問題提示・発問・板書計画などをリーディングスキルの視点から考えるとともに、正しく読まなければならないという必要感を大切に授業づくりに取り組むことになった。

しかし、先生方にとっては、リーディングスキルは初めてのことであり、何をどのよう

に研修していけば分からない状況であったため、1年目は、町の指導主事を12回招聘し、リーディングスキルについて基礎から学ぶ取り組みを行った。2年目は、1年目の算数科中心から他教科へ幅を広げるとともに、町内の小中学校の先生方に授業を公開し、研究を深めていった。

これまでの取組の成果としては、

- ① リーディングスキルの視点で教材分析をすることで、教師自身がこれまで以上に言葉を意識した授業づくりを行うようになった。
- ② 子どもは、言葉に着目したり、自分の考えの根拠をもとに伝えることができるようになった。
- ③ 学校の授業の中で、タブレット端末を使うことが多くなったが、通常文章を画像として認識してしまうところを正確に読もうとする意識が見られてきた。

ことがあげられる。

ある記事によると、「高校生になると学校教育だけでは読解力は向上しにくくなるので、大体、多くの人が中学3年生の読解力のまま大人になっている」と書かれていた。スキルは、「訓練や学習によって培われた高度な能力のことを指し、生まれ持った才能とは異なり、努力して技術や知識を磨けば、伸ばすことができる能力」である。努力すればスキルは身につくことを信じ、リーディングスキルを子どもたちに身に着けさせ、将来にわたって「読むこと」に困ることのないようにしていきたい。

特別寄稿



“あるもの”を生かした教育活動

柳津町教育委員会教育長 神田 順一

原稿の依頼があったときに、「最近書いたばかりなのに…またか!?’’ と思い、確認したところ…。令和4年6月の「両沼第138号」に書いていました、あまり参考にならないことを…。2年に1回を早いと感じていますが、市町村が少ない地区は、もっと早く依頼が回っているかもしれません。

両沼地区は、双葉地区の8町村に次ぐ7町村で構成されているので、相談できる“同志”が多いということになります。また、7町村には、それぞれに歴史があり、環境を生かした暮らしがあり、住民の町村への思い入れは大きいと感じます。大都市圏と比べれば、ないものがかかなり多いですが、その町村にしかないもの(=“あるもの”)も少ないとは言えません。そんなことを、改めて感じています。

5月はじめに、中学1年生へ、「知ってもらいたい柳津町・みなさんに期待すること」という内容で講話を行いました。事前の質問は、教育長になったわけや教育委員会の仕事をはじめ、多岐に渡りました。その中で一番多かったのは、「なぜ柳津町には、若者が楽しめる施設がないのか?’’ というものでした。

柳津町には、高校や総合病院がありません。また、子供たちが言うように、大型商業施設、遊園地やゲームセンターなど娯楽施設もありません。「ない」理由をじっくりと考えてももらいたいところでしたが、時間の関係で説明する形になってしまいました。既に近くの市や町にある、利用する人が少ない、多額の費がかかる、などを理由として挙げましたが、

子供たちは、すっきりしない様子でした。その表情からは、「わかっちゃいるけれど…」という雰囲気も伝わってきました。

ここで、ひるんでいる場合ではないので、続いて柳津町に“あるもの”を話題にしました。豊かな自然があり、信仰・歴史にかかわる文化財や伝統文化、水力・地熱発電などの再生可能エネルギーなど、様々な“資源”もあります。もちろん、観光業や農林業、商工業、各種サービス業など、現在の生活を支える町内の仕事も確認することができました。

特に、最近、専門機関での修復・クリーニングが終わって町に帰ってきた「人体像把手付土器」(愛称:イケちゃん)をはじめとする縄文遺跡からの出土品、沼沢火山の大噴火の影響などを、時間をかけて説明させてもらいました。また、町の観光事業に直結している圓蔵寺に関連する伝承や赤べこ伝説、あわまんじゅうの由来などについても、子供たちの質問に沿って話をさせてもらいました。そして、このあとの総合的な学習の時間での課題追究に少しでも役に立ってもらえれば考えて、「見えていなかったものが見えるよう、身のまわりの様々なことに疑問を持ってもらいたい」という話で締めくくりました。

「ないものねだり」ではなく、「あるもの」をどう生かしていくか」を考えることは、右肩下がりに転じた今だからこそ必要なことではないかと考えています。そんなことが、子供たちや教職員へ、少しでも伝わればと考えた今年度の中学1年生への講話でした。

先輩校長先生より

新たな気持ちで

会津坂下町教育委員会 湯田 眞佐利

「えっ、またお弁当なの！」

これは、新たな勤め先を伝えた時の妻の第一声です。振り返れば、学校以外の職場に勤める機会が多く、かれこれ10年近く妻の作る弁当のお世話になっています。本当に申し訳ないなあと思っています。

4月から勤務している教育委員会は、3月まで何かとお世話になった場所です。また、10年近く前に、指導主事として3年間働かせていただいた場所でもあります。経験があるとはいえ、仕事の手順等はすっかり忘れ、その都度周りに聞きながらなんとかやっています。主な業務は、学力向上に関することですが、指導主事時代に作ったリーフレット等の資料を見直し、ブラッシュアップしていくことも自分の仕事だなと思っています。また、保育所、幼稚園、小・中学校の素晴らしい取り組みを紹介し、保・幼・小・中を繋いでいくことも大事な仕事と考えています。アドバイザーという肩書にふさわしい仕事ができるよう、これまで以上に学んで頑張っていこうと、気持ちも新たに愛妻弁当を抱え、職場に向かう毎日です。

両沼地区小学校長会では、大変お世話になりました。お陰様で楽しく充実した2年間を過ごさせていただきました。どうぞお一人お一人が素晴らしい力を発揮され、益々ご活躍されることを心よりお祈りしています。毎年確実に年を取っていきませんが、生涯にわたって学び続ける姿を後輩に見せられるよう、お互い頑張ってくださいませ！



近況報告

本郷学園開校

会津美里町立本郷学園 星 潔

本郷学園の児童生徒初の登校日、4月8日。緊張感あふれる開校式から行事がスタートしました。会場は東校舎体育館（旧中学校）なので、1～5年生は、外を通過して移動してきましたが、何とか無事に時間通りに開校式を終えることができました。次は着任式・始業式です。来賓の皆様を見送るとすぐに開式しました。本来であれば着任式と始業式を分けるのですが、次に入学式が控えているため、着任式と始業式を一緒に実施し、時間短縮しました。そして入学式。こちらは1年生が学ぶ西校舎体育館（旧小学校）で行ないました。子ども達はまた移動しました。入学式も無事に終了し、最後は7年生の後期課程編入式。こちらは東校舎体育館での実施です。来賓の皆様を見送り、入学生と写真撮影を終えると、東校舎体育館へダッシュ。何とか下校スクールバスに間に合うように全ての式を終えることができました。1日の中でこれほどの式を行ない、挨拶したのは初めてです。そんなドタバタのスタートとなりましたが、児童生徒は義務教育学校に自然に溶け込み学んでいます。旧中学校舎で学ぶことになった6年生も順応できています。本郷学園初の運動会も、1～9年生までが笑顔あふれる姿で競技に応援に取り組みました。後期課程の子ども達が自主的に「運動会の歌」を歌い、全校生を一致団結させた姿は感動的で、義務教育学校の目指すべき姿を感じました。

両沼小学校長会の皆様には昨年度まで、大変お世話になりました。中学校籍になったとはいえ、前期課程も含めた校長であるので、今後も連携したり、ご助言をいただいたりすることになります。同じ両沼小中学校長会連絡会の仲間として、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

転出された先生方から

両沼での3年間

いわき市立菊田小学校 岩崎 秀幸

新任校長として、湯川村立笈川小学校へ赴任した令和3年4月、春の訪れが早く、サクラ満開の中で入学式を迎えた記憶があります。校長として、さらには会津地区での勤務が初めてだったこともあり、大きな不安を抱いてのスタートでした。

当時は新型コロナウイルス感染症が落ち着かず、様々な制限下での教育活動でした。子どもたちの健康・安全を守りつつ、どのように教育活動を充実させていくか、校長としての経験がない私にとって、両沼小学校長会の校長先生方からのご指導・ご助言はとてもありがたいものでした。運動会や学習発表会など、保護者や地域の方を参集しての学校行事を、どのような形で開催するかなど、校長会での情報交換を参考に、子どもたちが笑顔になれる場を計画・運営できたのではないかと思います。

学校において、校長は孤独な存在であると感じるがありました。現状を把握し、最終判断をすることの重さを感じました。しかし、近隣校や校長会の校長先生方からご指導や多くの情報をいただいたことで、「子どもたちのために」判断し実践することができました。改めて、両沼小学校長会の皆様に感謝申し上げます。両沼での3年間の経験を生かし、いわき市立菊田小学校のスローガン「あいさつと笑顔があふれる楽しい学校」を目指して精進して参ります。今後とも、ご指導よろしくお願いいたします。



両沼での思い出

県中教育事務所 蛭田 智之

柳津小学校に新任校長として赴任して3年間、両沼地区の校長先生方には大変お世話になりました。柳津小学校での3年間は、初めての小学校の勤務ということで、戸惑うことが多くありました。しかし、校長会で情報交換や相談をさせていただき、教育活動を進めることができました。

柳津町はタブレットの導入が早くICT活用が盛んで、私が柳津小に勤務した3年間はふくしま「未来の教室」授業充実事業の実践協力校として、成果を発表してきました。先生方や子供たちがICTを積極的に活用して授業をしている姿を間近で見て、学びの変革に感動しました。また、令和5年に創立150周年を迎え、先生方やPTAの皆さんと記念式典を成功させることができたことも、とても思い出に残っています。

この4月から学校現場を離れ2ヶ月が経ちますが、未知のことばかりで戸惑っています。しかし、これらの経験は、現場でわからなかったことを知るチャンスと考え、貴重な機会を与えられたことに感謝し、精進してまいりたいと思います。

両沼地区校長会で学ばせていただいたことを生かし、地区の学校や子どもたちのために力を尽くしていきたいと思います。

最後になりますが、今後の両沼地区小学校長会の益々のご発展を祈念いたします。お世話になりました。



学校経営・実践紹介

四者で創る学校経営

三島町市立三島小学校 長澤 敏行

子どもたちが、変化の激しいこれからの社会を生きるためには、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の知・徳・体をバランスよく育てることが大切になってくる。

そこで、学校経営ビジョンに、育てたい資質・能力を明示し、子ども・保護者・教職員・地域の四者で、目の前の子どもたちを育てていきたいと考えた。その方法は、以下のとおりである。

- ① 育てたい資質・能力の作成
 - ・「知・徳・体」と「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」がマトリックスになった表を使用する。
 - ・教職員の目指したい子ども像や学校評価による保護者の思い等を集約する。
- ② 学校経営ビジョンへの位置付けと周知
 - ・学校経営ビジョンに明示し、学校だよりやHPで保護者や地域に周知する。
- ③ 学級経営ビジョンとのリンク
 - ・育てたい資質・能力を学級の実態に合わせて、学級経営ビジョンとリンクさせる。
- ④ 評価
 - ・自己評価や学校評価等で定期的に評価する。

こうすることで、より組織的に目の前の子どもを、同じベクトルで育てていくことができると考える。また、子ども・保護者・教職員・地域の四者が、自分事として学校経営に参画できると考える。



特色ある教育活動

昭和村立昭和小学校 長谷川敏治

児童の実態や学校の現状、保護者、地域の願いをふまえた特色ある教育活動の展開が、学校経営において大切だと考えています。

今年度の特色ある教育活動として、継続して取り組んでいる「カスミソウ・からむし学習」「少人数・複式学級の強みを生かした教育活動」の他に、『小中連携教育』『小小連携交流学习』を推進しています。

小中連携教育は、将来的な小中一貫校・義務教育学校設立をふまえ、昭和中との小中連携教育を実施し、教育効果を高めることが主なねらいです。昭和中教員の小学校乗り入れ授業や出前授業、3回目となる小中合同文化祭、漢検等の各種検定合同実施、児童生徒の交流等、小中9年間のスパンで子ども達の教育に継続的に取り組んでいます。

小小連携交流学习は、他校の児童と交流することで、多様な価値感にふれること、コミュニケーション能力の実践力の育成を図ること、昭和小や昭和村のよさに気づき、誇りをもたせることが主なねらいです。継続してきた両沼西部三町村(昭和村・金山町・三島町)小学校との交流学习とともに、博士トンネル開通を契機とした会津美里町立宮川小学校との交流学习、昭和村の姉妹都市埼玉県草加市の小学校との交流活動に計画的に取り組んでいます。

様々なエビデンスをもとにした、昭和小の子ども達に必要な教育活動、昭和小でしかできない特色ある教育活動を推進することで、保護者、地域、学校が同じ願いのもとに展開するよりよい教育活動につながるのではないかと思います。

昭和村の将来を担い、昭和村に貢献する人材の育成につながる特色ある教育活動推進のために、校長として今何ができるのか、何をなすべきかを考え続けていきたいです。

教育随想・所感

高齢者雇用として

坂下東小学校 石見勝則

特例任用として、今年も本校の校長を務めることになった。両沼小学校長会には7年間もの長い間お世話になることとなった。微力極まりないが、両沼地区の教育に力を尽くしたいと思っている。

特例任用校長なので、定年を過ぎた後の勤務や給料等を現職の先生方に分かってもらうことも役目だと思っている。

まずは給料について。4月からの給料は3割減額されている。管理職手当・義務教育等教育特別手当も同じで3割減。そこから諸々惹かれていくので15万円位が消えている。(それぞれの校長先生方の手取り給料から15万程度を引いてみてください)

校長の仕事自体は、まったく変更はない。3月に県で退職辞令をいただいたが、特例任用者は、文面の長い辞令を手になっている。そのため、履歴書に5行くらい書き足さなければならなかった。今年からは毎朝学校を開けるようにした。教頭の負担を少しでも減らすことを考えていかなければいけないだろうと思うようになった。

こんな風を書くに「不満たらたら」に聞こえてしまうのだが、60歳を超えたら「高齢者雇用」の範疇に入るということを認識しておく必要がある。働きたい意志があるからこそ雇用機会があるわけである。

今まで先輩方からたくさんを恩を受けてきた。その恩を送ることが今の私にできることなのだろう。人生の残りの時間は限られている。やれることをやる。そして未来をつくるための人づくりをする。私たち教員は未来をつくる仕事をしていると再認識している。

いずれ誰もが退職を迎える。その後の生活も長い。何を生きがいとしていくかも先生方に考えておいてほしいところである。

編集後記

令和6年度も3ヵ月が過ぎようとしています。学級経営において年度学期始めは「黄金の3日間」といわれますが、学校経営においては「黄金の3ヵ月」ともいえる重要な時期ではなかったでしょうか。それぞれの学校で、校長、副校長として、学校の教育活動を方向づけるために、非常に神経を使われたのではないかと推察いたします。そんな時期、そしてご多用の中、原稿をお寄せくださいました先生方に心より御礼申し上げます。

本号では、博多弘泰会長が巻頭を飾り、特別寄稿として柳津町教育委員会教育長の神田順一様より玉稿をいただきました。また、ご退職された前坂下南小校長湯田眞佐利先生、中学校に転籍、両沼地区より転出されました各校長先生方からは近況を寄せて頂きました。また現会員の校長先生方からは、学校経営・実践紹介や教育随想・所感についての原稿をお寄せいただきました。

編集にあたって先生方からの寄稿文を拝読させていただくと、各先生方の熱い思い、先を見通した考えが伝わってきました。会員の皆様におかれましては、本会報を今後の学校経営の参考としていただければと思います。

「黄金の3ヵ月」がまもなく終わり、少しずつ余裕も出てくる頃かと思えます。今後は、じっくりと腰を落ち着けて、そして、お体を大切にご自愛の上、学校経営にあたられ、また、またそれぞれの立場でのご活躍をお祈りいたします。

令和6年6月

両沼小学校長会広報部第144号担当
柳津町立西山小学校 齋藤 知宣

